

日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION



日本財団・瀬戸内
オーシャンズX

うみ
海をたすける
ももたろう



うみ海をたすける

ももたろう

せとうち
瀬戸内のあるところに
おじいさんとおばあさんが
くらしていました。
おじいさんはやま山へ、しばかりに。
おばあさんはかわ川へ、せんたくに。
ここまではみんながし知っているはなしお話。



ある日、おばあさんが川でせんたくをしていると
どんぶらこ、どんぶらこ。ペットボトルが、空き缶が、
レジ袋が、タバコの吸いがらが、ながれてきました。

そんなごみにまざって
大きな桃がながれてきても
おばあさんは気がつきません。





どんぶらこ、どんぶらこ。

ごみと大きな桃^{もも}がたどりついたのは

瀬戸内海^{せとないかい}にうかぶ鬼ヶ島^{おにがしま}。

「わしらの海^{うみ}はごみ捨て場^{すば}じゃないぞ！」

鬼^{おに}たちはツノ^たを立てておこっています。

おやおや。子ども^この鬼^{おに}が桃^{もも}をみつけたようです。



パッカーン！
おに もも
鬼たちが桃をわってみると
なか おとこ こ
なんと中からげんきな男の子が
とびだしてきました。
おに おとこ こ
鬼たちは男の子を
もも うま
桃から生まれた
な
「ももたろう」と名づけました。



おに
鬼にそだてられたももたろうはどんどん大きくなりました。
ある朝、ももたろうとおにたちが釣りに出かけてみると
釣れるのは魚ではなくてごみばかり。
「このままでは瀬戸内海がごみの海になってしまうぞ！」

それを聞いたももたろうが言いました。
「これまでそだててくれたお礼に、ごみ退治をしてきます。」

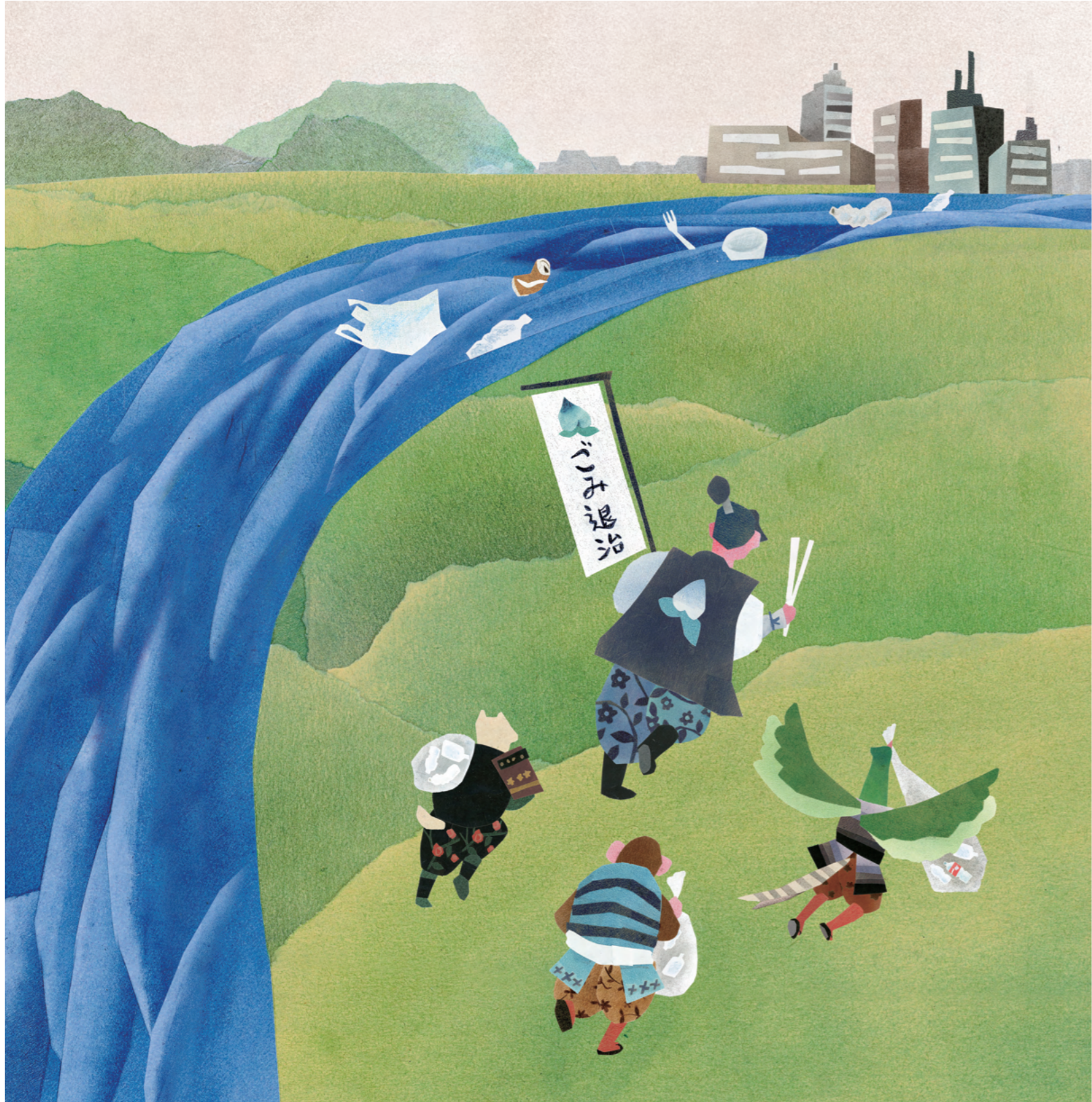




「ごみ^{たいじ}退治へいざ^{しゅっぱつ}出発！」
ながれてくるごみをたどって^{すす}進むももたろう。
ごみをひろいあつめながら^{せとないかい}瀬戸内海をぐんぐん^{すす}進みます。

ごみだらけの^{うみ}海をわたり
ごみだらけの^{かいがん}海岸につくと
「ももたろうさん、ももたろうさん。」
「おこしにつけたごみぶくろ、」
「ひとつ私^{わたし}にくださいな。」
イヌとサルとキジがいっしょに
ごみをひろ^{なかま}う仲間になってくれました。





おちているごみをひろいながら
ももたろうと仲間たちはどんどん進みます。
海岸から川へ。

そして、ついに^{まち}街へ^いと行きつきました。
そこで、ももたろう^みたちが見たものは・・・





はい
ごみばこに入りきらなかった
ペットボトルや、



どこからか
とんできたレジ袋、



「ぜんぶ街からきてたんだ。」
街のごみは風にはこぼれて川へ、
そして海へとながれていたのです。



す
タバコの吸いがら、



ポイすてされたごみ。



「ごみを退治して瀬戸内海をまもろう！」
街のひとたちも鬼もおじいさん、おばあさんも
いっしょになってごみをひろいあつめます。
みんなきれいな瀬戸内海が大好きだったので。





せとうち瀬戸内のみんながちからをあ合わせたことで
うみ海はきれいになりました。

「これからも大切な瀬戸内海をごみからまもりつづけよう」
うつくしい海うみのそばでみんなしあわせにせとないかいくらししましたとさ。
めでたし、めでたし。

まち街からと止めよう、ごみのどんぶらこ

街から止めよう、 ごみのどんぶらこ

瀬戸内海のごみ問題に取り組む



日本財団・瀬戸内 オーシャンズXとは？



瀬戸内海のごみ問題

いま、年間4,500tのごみが瀬戸内海に流れ込んでいます。
その約75%、3,000tのごみが街からやってきたごみで、
風や川に乗って、瀬戸内海まで流れ込んでいるのです。



瀬戸内海
海洋ごみ年間総流入量
4,500t/年

そのうち、

街から流れたごみの総流入量
3,000t/年

出典：藤枝ほか(2010)、環境省調査(2007)



瀬戸内オーシャンズXは、瀬戸内海に面した瀬戸内4県(岡山県、広島県、香川県、愛媛県)と
日本財団が協力してできた、瀬戸内をきれいで豊かにするためのプロジェクトです。
瀬戸内オーシャンズXは、2025年までに瀬戸内海への新たなごみの流入を70%減らし、
回収量を10%以上増やすことを目標としています。



ごみゼロの川は、ポイ捨てされにくい！ 「川ごみ清掃マラソンin高松御坊川」

ごみを一度すべて回収し、きれいになった川を見せることで、
ポイ捨て抑制効果につなげることを目的に、
『川ごみ清掃マラソン』と名付け、香川県高松市を流れる
延長12kmの二級河川「御坊川(ごぼうがわ)」で
ごみ拾いイベントを実施しました。



合計1400kgのごみを回収



街からのごみを減らせば、
きれいな瀬戸内海を
守ることができるんだ！



調査



海洋ごみの発生原因を調べる
大規模調査を実施

実証事業



人の立ち入り困難な場所のごみの
回収・運搬・処理方法を探る実証事業

循環モデル構築



インセンティブ付き
「ペットボトル回収機」の設置

企業・地域連帯



バスや路面電車などの特別
ラッピングによる海洋ごみ問題の啓発

制作：日本財団
イラスト：原田俊二